

## 石炭博物館の運営概要

### 基本方針

#### 博物館機能の再構築

夕張市における石炭産業の歴史は、炭鉱開削によってまちが形成発展したという歴史から、また石炭産業の急激な衰退の延長線上に財政破綻が生じたという現状からも、夕張市の過去から未来を見通すために、欠くことのできない重要な要素です。

今後の夕張市再生にとって、博物館で学ぶ歴史的経緯の認識が基盤となり、博物館から得た知識が原動力となることが期待されていると言えます。

そのため、社会教育施設として博物館機能を再構築することの意義と必要性を、強く意識します。

#### 市諸政策の先導的重要拠点として機能

石炭博物館は、「地方版総合計画」の基本理念である「RE START! Challenge More!」(＝外部の人々と交流しその知恵を借りながら挑戦・解決してゆく)を具体化するための、最も象徴的で戦略的な場です。

また、「現代版一山一家のまち」の固有性を表現し伝承するという、計画の機軸を担保する場でもあります。

さらに、同計画では「新たな人の流れ・交流人口の創出」「夕張の未来を創るプロジェクト」という戦略で、石炭博物館の先導的な役割が期待されています。夕張市が進めている諸政策で、このように重要拠点として期待されていることを強く意識し運営します。

### 事業目標

#### コンセプト確立と市内外への浸透・拡散

博物館の改修時に立案された基本的コンセプトは、「生きるに向き合う博物館」です。

これを具体化するために、炭鉱に生きた人々のドラマチックな生きざまを記録・表現したソフト事業を展開します。

博物館が訴える基本的なテーマに沿ったコンテンツの収集を図りつつ、その成果を市内へ浸透、市外へ拡散します。

#### 相反する要素間のバランスをとった運営

一方で、市内⇄市外、教育⇄観光、過去⇄未来…といった、相反する様々な要素を結合して新たな価値を生み夕張市の再生

に資するためのソフト施策の展開が、博物館運営にとって重要です。

市内に向けた社会教育(対象＝夕張市民)を機軸に置きつつ、同時に具体化の推進力として市外の力を巻きこむための新たな観光スタイル(従来型の「観光=目的」ではなく「観光=手段」として捉える「観光まちづくり」のようなニューツーリズム)や地域間連携の展開という、二面性・多様性を強く意識し運営します。

### 年次展開

#### 初年度(2018年度)

- 市民意識の醸成や博物館機能の回復など、基本的な運営スタイルの確立を図ります。
- リニューアル効果を最大限に具体化するため、オープニング時の式典や企画展、市民の積極的な招致、広域的な対外PRなど、インパクトのある事業を展開します。
- 北海道150年事業と石炭大露頭発見130周年の連動企画を展開することにより、相乗効果を図ります。
- 炭鉄港事業との連動、鉄道廃止を見越した先行企画を展開します。

#### 2～5年度(2019～2022年度)

- 初年度で概略確立した安定的な運営スタイルを基盤として、リピーターと新規入場者の獲得という、質・量のバランスをとった運営を指向します。
- 岩見沢市・夕張市・赤平市という空知産炭地域の拠点的な自治体、国内の同種(他の鉱山)・歴史的関連を持つ地域(鹿児島など)とを結ぶ広域ネットワークの展開充実を図ります。
- 特徴的な特別展示企画や、1階のオープンスペースを活用した催事企画のバラエティを拡充し、話題性の発揮に努めます。
- 博物館周辺にある空間(旧石炭の歴史村跡地など)や資源(炭鉱や鉄道の遺産など)を含めた展開を意識し、施設型博物館からフィールドミュージアムへの拡大を目指します。
- 博物館以外のアメニティー機能(飲食・物販、休息・修景)の充実を図ります。
- 職員教育の継続的実施や、市内外の他組織との連携によって、博物館機能の充実を図ります。

### 2018年度の運営

#### 開館概要

4/28(土)～11/4(回)を定期営業期間とし、休館日は火曜日(5/18/7/8/14は開館)です。冬季休業期間中も団体は随時受付します。

営業時間は、9月まで10～17時、10月からは10～16時で、最終入場は閉館時間の30分前までです。

入館料(消費税込)は、大人1,080円(中学生以上)・子供650円(小学生)・団体860円(20名以上の大人)。夕張市民は大人＝当面無料/子供＝無料と、従来の料金体系から大幅に簡素化しました。年間有料入場者数は、14,000人を目標としています。

#### 運営スタッフ

新採用の常勤5名、NPO 役員の非常勤3名に加えて、夕張市から地域おこし協力隊(2名)のサポートを頂き、初年度の運営をスタートします。

現在、スタッフの採用活動を進めています。すでに2月1日付で原田唯史さんを採用しました。原田さんは会員番号18番という



NPO 設立時からの運営会員で、2015年から夕張市地域おこし協力隊員として石炭博物館の再生を手がけてきました。その経験を生かして、開館後は現場運営を統括する業務部長に就任予定です。

また、館長に吉岡理事長、学芸部門をサポートする特別学芸員に熊谷監事(前石炭博物館館長)、空知管内の広域連携を担当する企画部長に酒井常務理事と、NPO 役員も非常勤職員として運営に参画します。

#### アドバイザーボード

市が設置する評価委員会とは別にNPO が独自にアドバイザーボード制度を設け、第三者の視点から運営業務の改善・向上についての指摘を頂き、その意見を運営に反映させます。

構成メンバーは、博物館学術系と地域振興系の有識者6～10名程度を想定しており、現場で専門的なご意見を頂きながら、より良い博物館運営を目指します。メンバーは打診中ですが、すでに数名の著名な方から就任のご内諾を頂いています。

#### 人事異動

2018/02/01▷新採用/原田唯史(夕張市石炭博物館開設準備室長、01/31まで夕張市地域おこし協力隊員・夕張市教育委員会石炭博物館担当)

	特定非営利活動法人 炭鉄の記憶推進事業団 理事長 吉岡宏高 〒068-0021 岩見沢市1条西4丁目3 そらち炭鉄の記憶マネジメントセンター TEL 0126-24-9901 FAX 0126-24-9902 http://www.soratan.com/	No. 016 2018/03/01
--	---	-----------------------



改修前の石炭博物館

## 夕張市石炭博物館 NPOが運営!

2018年度から指定管理者に

4月28日(土)13時から営業開始

#### 原点に回帰する

当NPOは、1998年度に開始の空知支庁「炭鉄の記憶事業」で活発化した管内市民活動をベースに、2007年に設立されました。

法人化の大きな契機となったのは、夕張市財政破綻による石炭博物館の閉館問題でした。「オール空知の博物館として、模擬坑道の排水ポンプは一瞬たりとも止めることはできない」との思いが、博物館の指定管理者受託に向けて設立の原動力となりました。

その後、加森観光が指定管理者に決定したことで、本来の活動である空知全域での展開に注力し、特に2009年「そらち炭鉄の記憶マネジメントセンター」を開設したことで活動の質・量が格段に向上するなど、10年という短期間で大きく成長することができました。

このような経緯から、夕張はNPO 創業の地と言える場所です。このたび石炭博物館の指定管理者となったことは、10年の活動を経て、原点に回帰する意味があります。

#### 弱い活動基盤…皆さんの協力が不可欠

博物館・模擬坑道が改修できるまでの道のりは、長い「剣が峰」を歩くような心持

ちでしたが、様々な方のご助力を得て、何とか道筋をつけることができました。

しかし、建物設備や展示の骨格は年度末までに整備されるものの、財政再建下で予算に限りがあり、5,500㎡という大きな展示面積の博物館にしては、十分な運営環境が整っていないのが現状です。

開業に向けての準備作業が本格化する中で、ほとんどの什器備品をNPO で用意する必要があり、一台150万円の券売機から500円のバケツまで、初期投資の負担増高が大きな課題となっています。

そのため、会員皆さんに寄付をお願いするなど、ご協力を仰がなければならない状況にあります。

#### 運営の基本方針

改修時に立案された基本的な考え方は、「生きるに向き合う博物館」です。炭鉄とともにあった人生を記録し表現する場として、夕張市民の皆さんとの関わりが最も重要であると認識しています。

一方で、夕張再生のためには、夕張のことを外にアピールする《アンプ》、外の力を夕張に引き入れる《ポンプ》の役割もまた重要です。

限られた財源の中で整備することができ

た貴重な博物館を、市内⇄市外、教育⇄観光、過去⇄未来…といった相反する様々な要素を乗り越えた新たな価値を生み出す拠点として、しっかりと運営する所存です。

#### 「点」から「線」「面」へ

これまででは、岩見沢の「そらち炭鉄の記憶マネジメントセンター」をベースに活動してきましたが、法人創業の地である夕張に強力な拠点を獲得することができました。7月には赤平立坑ビジターセンターも開業予定で、夕張同様にしっかりと支援したいと考えています。

これら新たな環境を得て、岩見沢の「点」から、岩見沢-夕張を結ぶ「線」へ、さらに赤平を加えて「面」へという新たな展開を目指します。さらに、いよいよ活発化してきた空知の活動を、前広に「炭鉄港」へと押し進め、社会的な動きを起こして参ります。

#### 「安全第一」で

急速掘進は事故のもと。石炭博物館は5年間の指定管理期間で、徐々にステップアップを図りたいと思います。特に初年度は、(物理的だけでなく経営的にも)安全操業と運営体制の確立に、労力を費やさざるを得ないと予想しています。

当初は、なかなか成果を上げることができず、関係者の皆さんにはもどかしい思いを与えてしまうかもしれません。長い眼でご支援を頂きたく、切にお願い申し上げます。

(⇒ 詳細は4頁と別紙をご覧ください)

多額の初期投資で苦戦中!

### ご寄付のお願い

金額の多寡にかかわらず、ご寄付を頂けると開業準備が円滑に進み大変助かります

● 寄付特典 ●

《全員》開業記念特製ポストカード＝1セット  
《5,000円～9,999円》子供料金(650円)で入館できる割引券＝2枚  
《10,000円～》10,000円につき無料入館券＝1枚、さらに30,000円以上の方は4/28(土)10:30～12:30の開業記念式典に1名ご招待

ご協力頂ける場合は  
同封の郵便振替用紙でご送金下さい

## ■ 報告 ■ 2017年

設立から10周年を迎えた2017年は、空知産炭地域と小樽市・室蘭市を結ぶ「炭鉄港」や、そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター（以下「マネジメントセンター」）と夕張市石炭博物館・赤平立坑を結ぶ、広域ネットワークの新たな展開について、2018年に向けた基盤を作る年となりました。

[活動計画に対して：○=達成 △=途上 ×=未了]

### ■ 出版事業

×ブックレット・解説資料の刊行：業務が輻輳し、具体的成果を得ることができませんでした。

### ■ 炭鉱遺産事業

○赤平立坑・石炭博物館など主要炭鉱遺産の保全活用に対する積極的な関与：夕張市石炭博物館は、2016年度に模擬坑道の改修を終え、2017年度末（2018/03末）までに本館の改修・展示更新を終える予定です。リニューアルオープンする2018年度から当法人が指定管理者として運営を行うべく、2017年初冬から運営委員会や理事会を重ねて、夕張市と交渉を進めてきました。その結果、12月18日付で指定管理候補者として選定、夕張市議会平成30年第1回臨時会議（2018/01/16）で議決され、正式に選任されました。

また、活用計画の策定に関わってきた赤平市の住友赤平立坑では、2018年7月開業に向けビジターセンターの建設工事が進んでいます。その動きを加速支援すべく、坑口浴場でアートプロジェクトを展開し、9日間の会期で入場者数は約1,000名となりました。赤平立坑を中心に空知北部地域の中核的な活動拠点の確立に向けて、当法人としての関与方法について赤平市当局との協議を行っています。三笠市の住友奔別立坑は、保存活用に向けた気運醸成が進んでいないことから、5月大型連休と夏休み期間中に17日間の敷地公開を行い、1,362名の来訪がありました。

空知総合振興局の事業に協力して炭鉱遺産の現況調査を行い、その成果が取りま

められ、「炭鉄港」のストーリー策定に大きく貢献しました。

炭鉱遺産のある空間を歩いて巡り学ぶ「ぶらぶらまち歩き」は、理事を中心に過去最大15コースが設定され、285名が参加し定番行事として定着しました。

○小樽・室蘭との連携による「炭鉄港」の日本遺産に向けた運動の強化：「炭鉄港」は地道な継続的展開が奏功して、日本遺産への登録に向けた活動の流れが本格化してきました。

関係自治体議員による「炭鉄港議員連盟」が組織され三地域の相互交流が促進されたほか、空知総合振興局から受託した「炭鉄港ストーリー構築事業」によって炭鉄港の全容を初めて一冊に取りまとめた冊子を作成することができました。

### ■ 学術支援事業

○歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流の強化：2017年も(株)島津興業からの受託調査が継続されたことよって、空知総合振興局主催の炭鉄港関連催事など鹿児島と北海道との歴史的経緯を踏まえた活動を展開することができました。

△基礎的な資料の整備・公開体制の構築：統計・図面・基本図書など空知産炭地域での石炭産業の展開過程を詳しく説明する基礎的な資料について、その整理と公開を進めようとしたが、他業務が繁多であったことから準備作業にとどまりました。

### ■ 市民団体連携事業

○管内の機関・団体との連携：活動の様々な局面を通じて管内の機関・団体と良好な関係を築く取り組みは、マネジメントセンターの一連の活動の中で展開しました。

○国内外の関係者・団体へのアピールと受入対応：マネジメントセンターには各地各所から多様な求めが寄せられ、積極的に対応しました。なかでも、明治期を中心に炭鉱労働者の移住元であった秋田県秋北地区（大館・小坂鉱山）と、新たな関係を構築することができたのは大きな成果でした。

### ■ 拠点施設事業

○そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの継続安定的な運営：限られた経営資源の制約の中で、マネジメントセンターの開館を継続し、空知の炭鉱に関するインフォメーションセンターとしての機能を発揮することができました。2017年1～12月の入館者数は4,436名（2016年5,134名）で安定推移しています。

また、次年度の展開に備えて、元赤平市地域おこし協力隊員の大倉加奈さんを採用し、事務局体制の強化を図りました。

一方で反省点として、石蔵での催事や企画展の開催頻度が低下したことが挙げられます。

### ■ ヘリテージツーリズム事業

△研修旅行など受け入れ対応：他社ツアーのガイド受託や各種視察の手配業務は、2017年では22件・参加者741名となりました。次第に件数を伸ばしつつありますが、今後とも一層の拡充を図る必要があります。

### ■ 会務

△会員サービスの充実：2月には会員交流会を開催、4月には夕張市石炭博物館の模擬坑道の公開に先立って会員限定の内覧会を開催しました。

×広報体制の強化：十分な対応ができませんでした。

○NPO設立10周年記念の行事：11月に講演会、式典・祝賀会を開催し、空知総合振興局長・管内首長7名を含む114名の参加を得て、盛大に開催することができました。

○会員数2017年12月末]総数=322名(昨年 322名)、運営会員=48名(同48名)、一般会員=253名(同256名)、賛助会員=21社(同18社)、[動静]入会=33名(同54名)、退会=33名(同16名)、種別変更=0名(同7名)

### ■ 2017/12/31の財務状況

科目	2017 決算	
<b>資産の部</b>		
流動資産	現預金	2,407 <small>北洋銀行普通預金など</small>
	売掛金	60 <small>札幌学院大講義料金</small>
	棚卸資産	103 <small>販売用書籍</small>
	前払費用	300 <small>前払家賃6ヶ月</small>
	立替金	21 <small>2017/2除雪負担金</small>
小計	2,891	
固定資産	什器備品	223 <small>大判プリンター</small>
	減価償却累計額	▲223
	敷金	50 <small>事務所敷金</small>
小計	50	
資産合計	2,941	
<b>負債の部</b>		
預り金	28 <small>従業員社会保険料</small>	
負債合計	28	
<b>正味財産の部</b>		
前期繰越正味財産	3,393	
当期正味財産増加額	▲480	
正味財産合計	2,913	
負債および正味財産	2,941	

単位：千円

### ■ 活動計算の2017年決算・2018年予算

科目	2017 決算	2018 予算
<b>経常収益</b>		
受取会費	2,171	2,200
寄付金	100	500
事業収益	13,862	29,500
補助金	2,400	2,000
その他	128	1
経常収益計	18,661	34,201
<b>経常費用</b>		
出版事業	197	600
ツーリズム事業	202	200
遺産保活事業	2,617	2,500
学術支援事業	8,732	3,500
市民連携事業	765	700
拠点施設事業	5,808	4,800
石炭博物館事業	0	20,000
その他事業	109	0
小計	18,430	14,400
管理費	人件費 300	1,300
	その他経費 303	410
小計	603	1,710
経常費用計	19,033	34,010
当期正味財産増加額	▲372	191
法人税・住民税・事業税	▲108	▲90
前期繰越正味財産額	3,393	2,913
当期正味財産	2,913	3,013

単位：千円

## ■ 主要指標の推移 ■ 2010～2017年

2009～2013年は、国の事業導入がマネジメントセンターの立ち上げに際して大きな力となりました。2014年以降は、賛助会員のご支援や、地域シンクタンクとしての特性を発揮した受託調査の受注増加によって、自立的経営へと転換することができました。

期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
会計年	2007*	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	
<b>損益構造 (単位：千円)</b>												
収益	会費	634	532	618	937	684	860	1,003	804	1,641	2,157	2,171
	寄付金	51	19	31	113	65	250	222	197	330	253	100
	事業収益	380	1,060	1,229	5,034	5,320	2,821	8,653	10,626	8,119	11,868	13,862
	補助金	0	500	9,360	19,411	18,890	19,845	13,815	5,240	5,500	3,000	2,400
	助成金	0	500	100	0	950	1,814	1,000	0	0	0	0
	その他	118	0	0	0	0	0	0	1	89	0	128
計	1,183	2,611	11,338	25,495	25,909	25,590	24,693	16,868	15,679	17,278	18,661	
事業費	693	2,092	9,704	20,423	23,182	20,869	17,283	16,627	15,679	16,675	19,033	
<b>貸借残高 (単位：千円)</b>												
現預金残高	359	625	564	2,226	1,193	1,873	4,905	1,807	3,175	1,994	2,407	
正味財産残高	359	625	525	2,173	1,411	1,614	5,098	3,000	3,358	3,393	2,913	
<b>会員 (単位：人・法人) 期末在籍数</b>												
運営会員	32	37	39	37	39	40	41	42	39	48	48	
一般会員	105	115	142	143	148	191	211	217	229	256	253	
賛助会員	0	2	2	2	2	2	2	3	16	18	21	

\*2007年は7ヶ月 補助金=特定の事業を対象にしたもの、助成金=事業を特定せず活動全般に対するもの